

高価な身なりの男——一橋哲郎（62）が、正木玲奈（28）の顎を持ち上げる。

キスをするかに見えるが……

正木 「あーんして」

玲奈、ゆっくりと口をあける。

一橋、玲奈の口に錠剤を入れようとする……

そのとき、ドンと、勢いよく扉が開く。

入ってきた千木良大鉄（36）、すかさずカメラを構えてシャッターを切る。

一橋 「な、何してる……」

ニヤリと口角をあげた千木良は一橋に近づき、その表情を写真に収める。

一橋 「くそっ」

一橋、千木良に掴みかかる。

しかし、千木良、華麗にかわし、一橋はテーブルにつまづいて転がる。グラスが割れて、散らばる錠剤。仰向けの一橋を、千木良が撮る。

一橋 「何者だ」

千木良 「週刊新宝の千木良です」

玲奈、わけがわからず逃げ出そうとする。

千木良 「動かないで」

玲奈、ビクツとして制止。

千木良 「警察来るから。ありのままを説明して」

玲奈 「警察……」

千木良 「飲んでないよね、それ」

床に散らばった錠剤。

玲奈は一瞥して、小刻みに頷く。

千木良 「それ、合成麻薬」

玲奈 「え……」

一橋、千木良の足を掴もうとするが、かわして、シヤッターを切る。

千木良 「製薬会社の社長が裏では麻薬捌いてるなんて、笑えないでしょ」

## 直しのポイント

①いきなりドアが開くと、キスしようとしていたのが伝わらない。観客は悪い奴かもわからないので、しかり錠剤もセットアップ。

②千木良の動きが警察みたいなので、カメラなら、その動きに徹する。

③書いていても、警察がいつくるのかとか、その辺りの疑問が否めない……それによって、展開などまるで変わる。